

京都大学原子炉実験所の安全性等について

昨年の福島第一原子力発電所で発生した原子力災害を踏まえ、京都大学原子炉実験所の研究用原子炉（KUR）の安全性等について、次のとおり対応しております。

1. 原子力事業所に対する申し入れへの対応について

昨年、大阪府知事、熊取町長、泉佐野市長、貝塚市長からの「原子力事業所に対する申し入れ」を頂き、その回答として今回の原子力災害を踏まえて、全電源喪失時の対策を強化するため、KUR炉心タンクからの漏水に備えて耐震防火水槽及び可搬式消防ポンプを設置するとともに、炉心の状況を把握するための計装設備用の電源として可搬式発電機を整備することを回答しました。昨年10月末までに40トンの耐震防火水槽1基、可搬式消防ポンプ1台、可搬式発電機2台を整備しております。

2. 文部科学省から連絡・指示について

昨年の原子力災害を踏まえ、原子炉施設の安全性に関して文部科学省からの連絡・指示等に速やかに対応することとしておりますが、現在のところ特に連絡・指示等はありません。今後、連絡・指示等がありましたら速やかに対応して参ります。

3. 施設・設備の基幹整備について

KURを当分の間運転するため、安全性及び信頼性の維持・向上に努めており、議題（4）でご説明いたしますが原子炉実験所内の電気・水などのライフラインを整備することとしております。

4. 核物質防護について

原子力関連施設の核物質防護強化のため、省令改正が行われ、立入り制限等の管理が強化されることとなりますので、その対応をしたいと考えております。